

國第二回參議院文化委員會會議錄第七號

昭和二十三年六月十八日(金曜日)

本日の会議に付した事件

○祝祭日の改正に関する件

午後一時五十五分開鑿

○委員長(山本謙造君) それでは口より委員会を開会致します。予備審査のための議案として、榮典法案が本委員会に付託になつておりますから、この提案理由の説明を聽くことに致したいと存じます。

○政府委員(佐藤理夫君) 只今上程に

かりました。新憲法公布後二年、憲法に予定せられました憲法附属の諸法律は、國会の熟心なる御審議によりまして、ほぼ完成いたしましたのであります。終戦と共に停止せられておりますことは、僅かに残つております事項の重要な一つであります。政府は相手の期間に亘り慎重考究いたしました結果、旧憲法と共に、旧憲法制度を廢止し、新憲法の精神にふさわしい新憲法制度を採用いたすことと決し、ここに提案いたすことと相成つた次第であります。

一、榮典の制度を存続すべきか否かは、憲法改正の際十分論議せられ、存續することとなつたのでありますから、この問題を撻返すことはいたしません。今やこれを制定する時期に到達したかということについても議論の余地もありましようが、政府はその時期に達しました。

のであります。榮典のことは元來國家として一日も廢すべからざるものであるに、終戰と共に停止せらるりますのに、そのままになつておりますことは遺憾なことであります。ここに民主的國家にふさわしい榮典を勘案いたした次第であります。

のは、文化に関する特に優れた功労については、その特殊性に鑑み、單一級の特別の勳章を設けて表彰することが適當と存じたからであります。新たに功労章の制度を設けましたのは、新普通勳章制度の簡素化したのを補いまして、廣くあらゆる方面に功労ある國民を表彰することを目的としたのであります。從來の褒章制度は、主として國民のいわゆる奇特性行爲を対象としたもので、今後もその趣旨は、これを存置すべきものと考えましたが、在來の褒章を以て表彰したもの内、社會公共に対する功勞に重きを置いたものは、これを功労章及び新勳章に移し、名称を善行章と改めることにいたしました。

以上申述べましたように、ここに旧制を一新しようとるのでありますが、更にその運営の実際において、從來の官憲民軍の弊風を廃し、被表彰者

以上本案の趣旨の概略を申し上げたのであります。尙詳細の点は、本案御審議の節申上げる所存であります。何とぞ慎重御審議の上、速かに御可決をうらんことを希望いたします。

○委員長(山本勇造君) 速記を止め下さい。

午後二時六分速記中止

午後三時三十五分速記開始

○委員長(山本勇造君) 速記を始め下さい。議題は祝祭日に関するものであります。我々いたしましては、國会から法律を出すことに前々からの計画になつておりますので、今日はその法律の原案ができておりますから、お手許に差上げてあるこれを議題にして、話を進めて頂きたいと思います。

第一に國民の日に関する法律ということになりますが、この「國民の日」ということについては、未

一日を選ぶ、その他沢山六つ、七つの基準が挙げられて、その観点から選んで来たのであります。が、そうしますと、從來の祝祭日というような文字が全然使われない方が、新憲法の精神その他の場合には、「國民の日」と、「國民の祝日」を二つ並べて考えますと、國民の祝日の方が一見大衆的に分る、而もそれが從来の祝祭日と関連して分る、そういう大衆的な字がありますが、それが前の祝祭日と繋がつて分るといふこと、これを言葉として言う場合には、非常に言いにくく、國民の祝日といふようになると、非常に言いにくいくばかりでなくして、東北地方の「しす」「じじ」「ず」が同じようなところにおいとは、「國民のすくず」と言つて、何が何やら分らんような結果を來

の例
印刷
院文化委
昭和二十
新學年スター
と思われるから、學童が希望に燃
て國民の志氣を振作し、道義の高揚を考え
ることは、現下喫緊の要務と考え
たと信ずるのであります。
我が國の現状を見ますと、終戰後
の一時的混亂を脱して、漸く思想的に
も經濟的にも再建の光明を認めようとな
いたしているのであります。ここに至
りましたのは、もとより連合國の援
助によるところが大であるのであります
が、又國民諸君の最惡の諸條件を克
服しての努力の結果にもよるのであり
ます。従いましてこれら國民の中で、
その効顯著と認められます者に対し
ましては、これが表彰の途を講じ、以
て國民の志氣を振作し、道義の高揚を
図ることは、現下喫緊の要務と考え
る。

國祭日「南山忌」又は「南朝祭」制定による陳情

三年八月十四日発行

員会會議

す。この点を考慮いたしまして、いわゆる公職追放者以外は、旧勲章を着用することを妨げないことにいたしました。あります。

次に新栄典制度は、新勲章制度を根幹とし、これに配するに功労章制度、善行章制度等を以てし、國民の表彰に遺憾のないことを期しました。新勲章制度は、一種五級の普通勲章を、單一級の文化勳章といたしました。普通勲章を一種五級といたしましたことは、在來の數種あつて、級別も多かつたのを簡素化いたすことが適切と考えたからであります。文化勳章を設けました

の格式、地位等に捉われるようなことは、本制度一新の意義は全く失われることは言はずまでもあります。従いまして政府においては、幸いに本案の趣旨に御賛成を得ましたならば、その運営において、又これを一括して、廣く市町村長や都道府縣知事などからの推薦を募つて、國民の表彰に遺漏のないことを期すると共に、尙こゝが審議機關として、内閣に、廣く民間各方面の公正なる人士にお願いしまして審議会を設け、その公正且つ民主的な審議を経て決するようによいたす所在であります。

議院の方においては、これを「國民の祝日」にしたいといふ意見のようありまするが、これを「國民の日にに関する法律」といたしますか「國民の祝日に関する法律」乃至は「國民の祝日法」というふうにいたしますか、これにつて……。

○金子洋文君 この法律は、從來の古い憲法に代る新憲法に則つて、それにふさわしい祝祭日を認定する、これが、我々がこの日を認定する基準の第一に挙げておりますが、その他基準として民族的な風習並びに世論を尊重する、國民全体に文化的意義がある

十歳もある。それに比べて國民の日の方は、非常に新鮮さがあつて、古い祝祭日と何らの繋がりを持たない、ような新鮮さを持つておると同時に、常に、よりも永遠に新しさを持つておる。同時に誰でもこれは口にして言える、國民の日と簡單に言える。こういうもろもろの長所を持つておりますので、この祝祭日は一年、二年で終るものであります。りませんから、長く続く意味からしても、國民の日に私は賛成したいと思ひます。

にこだわっているわけではございません。ただ若し國民の祝日といたしませんば、第一條の文章をやはり少し書き直さないと意味が徹底いたらないようだと思います。氣付きましたので、ちよつと……。

○委員長(山本勇造君) 昨日の打合会におきましては、参議院の文化委員会員さんは、國民の日で行こうという御決議がなったようになりますのですが、それならば、その法制部並びに専門調査委員の手において作成されましたこの原

すか。どういうふうにいたしますか。
○金子洋文君 意味としては「ここに
國民がこそつて祝い」という方がはつきりしますけれども、文章としては
の方が自然に響いて来るよう思います。
す。そうして同時に「國民がこそつて
祝い」という意味も十分現われていて
る、かのように考えております。
○岩本月州君 金子委員の今おつしや
ったことに私も同感であります。
○委員長(山本勇造君) それじや、「の

題になるといけませんから、この國民の日と、いふので、後で又どういう日が、加わつて来るにしましても、大体こゝであらゆる意味が入れられるものと、そういうふうに我々は解釈して、この文章を立案した、こういうことだけは、はつきりここに残して置きたいと思います。

「賛成」と呼ぶ者あり

○委員長(山本勇蔵君) この第一條につきまして、外に何か御意見ございませんか。

ら、この委員会乃至合同打合会の審議の模様が、新聞紙によつて傳せられることに對して多少輿論の反映があるとうにも考へられますのですが、その中にどうもやはり新らしい國民の日の制定の趣旨というものが、十分に瞭解していないために、極めて曖昧に理解されている点がありますので、法律としては、これ以上盛り込むということは無理であるということは了解いたしましたが、是非これを発布される際に、そういうステートメントにおいて、そ

賛成する者であります。この祝祭日として決められた日に中には、必ずしも祝うといふものばかりではなくて、懇ぶるものも入つておるし、いろ／＼なもののが入つております。勿論このようなもののも廣い意味で「祝い」という言葉の中に入るかも知れませんが、必ずしも國民の祝日と言つても当らなくはないといふやうで、大き目では見るから

案、皆さんのお考へも無論入つておりますが、この原案で直ぐに國民の目に開する法律をどうので進んで参りますか。か、それとももう少し考えますか。よろしければ、第一條から順次先に進みたいと思いますが、昨日の御決議が変らないものならば、このままで進んでよろしいように考えられますか。如何ですか。

申上げたいことは、「ここに國民こそそれを祝い、感謝せし」とあります。記念する日を定め」とありますが、こういうことになると、これが國民の日の一種の定義の形になつて來ますが、この中には後ろに出て来る「なくなつた人々をしのぶ」というようなものも、ちよつと入つておるのか、大きい意味では入つ

○羽仁五郎君 この第一條は、ここが我が大体了承したわけでありますが、法律として第一條が出来るのは、やはりこの法律が出されますときに、第一條に盛られている精神は、この前にも申上げましたような意味で、今までの日本の祝祭日というものが、過去を中心にしており、そういういわゆる天皇主権を中心にしてお

の点を強調して頂きたいということを希望します。

も知れませんけれども、併しやはり言葉を具さに穿鑿して行けば、いろいろな種類のものがあるから、必ずしも祝日と言わない方がいいのではないか。それに國民の日と言つた方が、もつと國民全般に親しみがあるし、新憲法の精神から申しましても、主権在民といふような意味から見ても、國民の日と言つた方が、より我々のものとして親しみを感じやしないか、こういうような点から言つても、私は今の金子委員の述べられた意見に賛成する者であります。

○**笠置義長**（山本勇造著）それでは第十二條を読んで見ます。“自由と平和を求めてやまない日本國民は、美しい風習を育てつゝ、よりよき社会、より豊かな生活をきずきあげるために、ここに國民こそぞつて祝い、感謝し、あるいは記念する日を定め、これを「國民の日」と名づける。これについて如何ですか。これはちよつと抜けておるようになりますね。「ここに國民こそぞつて祝い」となりますが、前にはたしかが「が」があつたように思います。これは「が」とすること一つの方法であります。もつと正しくは「國民のこぞつて祝い」でなければならんかと思ひますし、或いはここにあるように全部「が」「もの」もなくして「國民こそぞつて

つて疑問が超るといけませんが、これらの点について皆さんの御意見を伺つて置きます。

○園田謙君 今委員長の言われる意味は、「記念」という言葉の中に私は十分含まれていると思うのです。

○梅達録一君 その意味は、「感謝」という言葉にも意味付けられるし、又園田委員の言われるよう、「記念」という言葉の中にも含まれる。こういうことで了解した、と思ひます。

○森眞美(山本勇造君) それなら、これは文章の点があるので、こういうふうになつておると思いますが、併し法律の文章でありますから、その後でこれが定義である、これ以外のものを入れちゃいかんとか、いろいろなことが間

り、それから國際的な關係に対しても、對立する辨外的な日本優越をいはる意圖の上に立つてゐたということの批判が是非欲しい。この第一條は、これで私満足いたしましたが、この法律が發表されますときには、委員長報告なり、國会議事録の名においてなり、新聞発表においてなり、いずれかの方法を以て、これらはり國民にはつきり示して頂きたい。そうしてこれから我々の進むべき道が、將來に向つて、且つ人民主權の線に沿うて、且つ國際的な意識を十分に持つて進んで行くということを示して頂きたいと思うのであります。これを特に發言しますのは、大本教目前か

の局打合会の模様を記者が見て報じました。従つて案の説明も、行事のことよりも何もないのでありまして、従つてただ日だけであるために、何か淋しい感じを持たれたのだろうと思いますが、これはできるだけ早く、私は発表の方法をとりたいと思っております。

それから第二に、この日を我々が選んだのは、只今羽仁委員がおつゝやつたように、前の祝祭日は、宮廷を中心とした祝祭日でありますけれども、今度は新憲法の精神によつて選んでおりますので、従つて主権は國民にありますという建前から、いわゆる祝祭日は、宮廷を中心とした祝祭日でありますから、それらの点はございません。

常に言い現わしていくことがあ
りますが、内容といたしましては、別

いますし、或いはここにあるように全
部があるの」もなくて「國民こそつて

れが定義である。これ以外のものを入
れちゃいかんとかいうようなことが問
題に発言しますのは、大体数日前か

になつております。こういう「成人的
な選舉法等におきましては、その日は
満二十歳になつております。それから
くして、昔のいわゆる元服のような、
児童福祉法の建前から言いますと、兒
童と呼ぶのは、十八歳未満ということ

になつております。この日を選ぶというう
に定められたのでありますけれども、あの時にも大分疑義があつた
て、これを制定されておるのであります。
す。

員長報告なり、新聞社への発表なり、そ
こらの意味は明らかに発表するよ
にいたしたいと存じております。これ
は皆さんにおいても御異議がないと存
じますが、如何でありますよ。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕
○委員長(山本勇造君) 第一條につき
ましては、よろしうござりますか。
それでは第二條に移りまして、第二
條「國民の日を次のよう規定する。」こ
れであよつと附記えて置きましたが、普
通でありますと、「國民の日はこれを
大のよう規定する」というのが、今ま
での法律の書き方でありますけれど
も、「これを」という書き方は、あれは
漢文の直訳から来ておりますとのと、あ
の「これを」という字を、そういうふ
うにすることは、むしろ間違いと等し
いから、そうして日本の書き方でござ
いませんから、この法律におきまして
は、「これを」というような字を使わな
いで、新らしいやり方をやつて見た次
第でございまして、できるなら、日本
の法律も行つて貰いたいというような
ふうに考えております。そこでこの名
称等はお手許にございますが、これによ
り順々にやつて行つた方がよろし
うございますか。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕
○委員長(山本勇造君) それでは第一
条「元日、一月一日」この制定の趣旨が、
「年のはじめを祝う」というふうにな
つております。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕
○委員長(山本勇造君) それじゃ次
は、「成人の日、一月十五日」制定の
趣旨、「ことどもが、おとなになつたこと

を自覚し、社会もまたこれを祝う。」
どうもこれは昨日の打合会でも、一應
一定の式典を意味するようなものとし
て、これを制定されておるのであります
が御案がございませんでしょうか。実

際には一案といたしまして、ちよつとお聽
きを願いたいのですが、一案と
いたしまして、今のを、こういふう
に訂正したらどうかと思つたのであります
が、ちよつとお書き取りを願います。

〔おとなになつたことを自覚し、正し
く生き抜こうとする青年を祝い、励ま
す。」これはどうも長くならないと分
らないらしいですね。

○羽仁五郎君 そういう御趣旨だつた
うように書いたらどうでしようか。
○委員長(山本勇造君) 制定の趣旨な
んですから、すべて「日」を抜いておる
のです。

○羽仁五郎君 「日」は入れなくていい
のですが、社会が青年を彼らのメンバ
ーとして迎えて……。

○委員長(山本勇造君) つまり主語が
抜いてあるわけですね。青年を祝い、励
ますのは社会のわけですね。

○金子洋文君 この制定の趣旨を訂正
することは、相當時間がかかると思ひ
ます。これを一々あたたかうと、こうだと速
進んで頂きたいと思います。

〔賛成」と呼ぶ者あり〕

○三好始君 制定の趣旨の表現でなく
して、本質的な問題ですが、この「成
人の日」という趣旨そのものは「こと
もの日」というような、ことの全体

見であります。これは民法、それか

に対應する成人全体を意味するのでな
くして、昔のいわゆる元服のような、
児童福祉法の建前から言いますと、兒
童と呼ぶのは、十八歳未満ということ

前におきましては、元服というような
ことがあります。子供が自覺を持つ
わけがありますが、併しながら、この
日をいつにする。何歳にするというこ
とを、法律ではつきりすることも便宜

的ではありませんけれども、同時に余り強
いものもなくなつてしまつて、そういう
うのものもなくなつてしまつて、そういう
う自覺を持つ時がなかつた。ところが
又徵兵令が起つたために、今度は徵兵
検査までというので、あの二十歳とい
うのは、なかなかなつてしまつて、そういう
うのものもなくなつてしまつて、そういう
う自覺を持つ時がなかつた。ところが
又徵兵令が起つたために、今度は徵兵
検査までというので、あの二十歳とい
うのが、一つの儀式はなかつたけれ
ども、やはり青年に或る自覺を持たせ
る、まあ一つのきまりと言ひますか。
ところが今度は戦争を放棄して、徵兵
令というものがなくなりましたから、
只今の子供は、いつ自分が大人になつ
たかという自覺を持つような時がなく
なつておるので、併しこれからの
日本を新らしく築き上げて行くとい
うから言ふと、子供、それから青少年
が大いに自覺を持つてやつて與れなか
つたら、日本の本当の再建はでき得な
いといふ、その我々が一番望みを囁か
れておるのは、次の時代の人達ですか
ら、こういう人達の自覺を求めるとい
う、そういう意味で、この祝祭日の中
に社会教育の思想を織込もうとしたの
が、この「成人の日」なんです。

○三好始君 そういたしますと、はつ
きと、例え法規上の成年といったの
よう、一定の示点をここで示す必要
がないのですか。

○委員長(山本勇造君) 御尤もな御意
見であります。これは民法、それか
いと思います。

ら選舉法等におきましては、その日は
満二十歳になつております。それから
児童福祉法の建前から言いますと、兒
童と呼ぶのは、十八歳未満ということ

になつております。こういう「成人的
な選舉法等におきましては、その日は
満二十歳になつております。それから
児童福祉法の建前から言いますと、兒
童と呼ぶのは、十八歳未満ということ

になつております。この日を選ぶというう
に定められたのでありますけれども、九月の「秋分の
日」は、我々が過去を思う日で「春分
の日」は将来を思う日にしようといふ
入れられた御趣旨をお聽きになりたい
と思いますけれども、九月の「秋分の
日」は、我々が過去を思う日で「春分
の日」は将来を思う日にしようといふ
のじやないでしようか。これは今金子
委員がお述べになつた方がよかつたか
いと思いますけれども、九月の「秋分の
日」は、我々が過去を思う日で「春分
の日」は将来を思う日にしようといふ
ことが、大体根本であったように思
います。それからもう一つは、春をたた
えるとか、春をたたえるといふより
も、自然をたたえるという、そういう
心持が一つ欲しいというの、こうい
うふうに入れたわけあります。

○梅澤錦一君 私のこれは直感です
が、自然をたたえる時というのは、非
常によい言葉で、将来のために努力す
ると、これは一つ離れているのです
が、意識の繋がりを考えるならば、自
然をたたえ、國土を愛すと、こういう

○委員長(山本勇造君) それでは、制
定の趣旨につきましては、更に文章を
練るということにいたします。次の
春分の日、三月二十一日、自然をた
たえ、將來のために努力する。これに
ついて如何ですか。

○梅澤錦一君 昨日忙しかつたので、
つい出なくて發言するのは、非常に失
礼と思いますが、今「成人の日」の制定
の趣旨と同じよう、「自然をたたえ、」
まではよく分るのでですが、「將來のた
めに努力する。」ということの欄み場が
ぞれその土地の風習に従つて、或る所
で十八歳でしたい所は十八歳でなさ
る。二十歳でしたい所は二十歳でなさ
る。或いは又十九歳の方だけども、
もう二十歳だけの力を持つておるか
して、年齢について法律で堅いあれを
しなくて、融通性を持たせ。併し大
體の考え方としましては、十八歳乃至
二十歳というふうにして置いたらどう
かと思いますが、この点は大事な点で
ありますから、尙御意見がありました
らお述べを願いたいと思います。大体
今の上うな解釈で行こうといふこと
は、昨日の打合会でもできておるよう
に思ひますけれども、如何な
ものでありますよ。

○三島通關君 大分昨日、この点につ
いては相当長時間に亘つて議論をした
ことでござりますから、今日は、今委
員長の述べられた程度で進んで頂きました

三好始君 制定の趣旨の表現でなく
して、本質的な問題ですが、この「成
人の日」という趣旨そのものは「こと
もの日」というような、ことの全体

見であります。これは民法、それか
いと思います。

ふうに考えると直ぐ繋がると思いますが、同じことだと思います。「将来」という言葉を、ただ國土を愛すといふ言葉に変えただけですが。

○委員長(山本勇造君) この問題につきましては、久松委員何か御意見があるのじやございませんか。

○久松定義君 私はずつと制定の趣旨を拜見いたしましたと、國民自身の一つの休日としての観念であります。ただ自分達の生れた日本の國といふもの

の祝日もあつて然るべきことだと思いまして、「春分の日」につきましては、ここに將來の再建日本のために努力するというよりな意味も、一つ挿入して頂いたら好都合だと、こう存じて

おります。

○岩本洲洲君 制定の趣旨は後で論議されるのであります。そのときに時間が欲しいと思いますが、どうぞございましょうか。

○委員長(山本勇造君) それでは、この「天皇誕生日」に移りますが、よろしくございます。

○岩本洲洲君 よろしくございます。

〔「異議なし」と呼ぶものあり〕

○委員長(山本勇造君) 「天皇誕生日」と「天皇誕生日」に移りますが、よろしくございます。

○委員長(山本勇造君) それから「憲法記念日、五月三日、日本國憲法の施行を記念する。」

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(山本勇造君) 次は「ことじの日、五月五日、ことじの人格を重ん行を記念する。」

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(山本勇造君) それから「憲法記念日、五月三日、日本國憲法の施行を記念する。」

○委員長(山本勇造君) これは「ことじの日、五月五日、ことじの幸福をはかる。」

○三島通潤君 この「ことじの日」の

ことございますが、この「ことじの日」につきましては、私は実はたびたび論じましたので、もう一度ここで申上げることは恐縮なので、できるだけ簡単に申上げたいと思うのであります。

○久松定義君 月五日という日であると思います。「ことじの日」を置くということは、どな

たも反対のないことであるように、参衆両院とも伺つておるのであります。が、ただ問題になつて来るのは、五月五日という日であります。

○岩本洲洲君 どもの日」を置くということは、どな

たも反対のないことであるように、参衆両院とも伺つておるのであります。

○岩本洲洲君 どもの日」を置くといふことについて、ここで申上げて置いた方がいい

いようになります。当初私達

参議院の者達が考えておりましたことは、五月の三日に「ことじの日」を設けまして十一月三日に「憲法記念日」を設けて頂くというのが初めの考えであります。それはなぜかと申しますと、「ことじの日」を設けるのは、先ず一番先に考えることは季節といふことであります。それはなぜかと申しますと、「ことじの日」を設けるのは、先ず

りました。それでいろいろ天文台の方

であります。ベント・シーザンに「ことじの日」を設けたいということであ

りました。それでは、五月の三日には何がよいのか、あるいは五月の三日には何が悪いのか、これが

あります。それで子供がちばんだ日であるか

が、ただ問題は、五月五日といふ日になつて来るのであると思いますので、参衆両院とも伺つておるのであります。

○岩本洲洲君 どもの日」を置くといふことについて、ここで申上げて置いた方がいい

いようになります。当初私達

参議院の者達が考えておりましたことは、五月の三日に「ことじの日」を設けまして十一月三日に「憲法記念日」を設けて頂くといふのが初めの考えであります。それはなぜかと申しますと、「ことじの日」を設けるのは、先ず

りました。それでいろいろ天文台の方

であります。ベント・シーザンに「ことじの日」を設けたいといふことであ

ります。それで子供がちばんだ日であるか

が、ただ問題は、五月五日といふ日になつて来るのであると思いますので、参衆両院とも伺つておるのであります。

○岩本洲洲君 どもの日」を置くといふことについて、ここで申上げて置いた方がいい

いようになります。その後参議院におきました

ことは、五月五日といふ日は、一つには、

三日に決まって、それで子供の日が定

められました。ベント・シーザンであ

り、それで子供がちばんだ日であるか

が、五月五日がよくはないかとい

うことです。厚生省あたりでもこの運

動をやつておられる人があつて、是非

五一一致の御希望がありまして、余り

十日一日ということを参議院側が強く

主張いたしますと、「どもの日」その

ものがどつかへ飛んで行つてしまふ心

配も出て参りましたし、とにかく五月

一九日が天皇誕生の日、五月一日は

メーデー、これは祭日ではないけれど

この辺に祭日がくつき過ぎる。四月

一日が憲法記念日、五月五日が子供の日

一十九日が天皇誕生の日、五月一日は

メーデー、これは祭日ではないけれど

も大体お休みになる。それから五月三

日が憲法記念日、五月五日が子供の日

であるから、どうぞそらむことに

わらずに、新らしい精神を以て定め、

又日本の五月五日の節句といふのは、

さういうように、その制定の趣旨を

ますから、どうぞそらむことに

を讀んで、子供のために運動とい

うよなものは、世界ではまだどう

い子供日といふものは余りありません

。私は最近分つたのですが、六

月の何日かに、極く少数の國で、少

数の人達が、そういうチルドレンス

デーという子供の日のための運動があ

るということを調べましたが、六月何

日か、十幾日かあります。これは

日本は雨期になります。雨期にその日

を持つて来るということはどうかと思

われます。折角五月五日の最もいい氣

候に、それを入れたという趣旨であり

ますから、どうぞそらむことに

わらずに、新らしい精神を以て定め、

又日本の五月五日の節句といふのは、

さういうように、その制定の趣旨を

ますから、どうぞそらむことに

わらずに、新らしい精神を以て定め、

又日本の五月五日の節句といふのは、

さういうように、その制定の趣旨を

はそばかりでないと思いますが、大

分参議院からの非常な熱烈な御意見も

あつて入れたものだ。殊に五月五日と

五月の初めにやつて貰いたいという、

運動をやつておられる人があつて、是非

五月の初めにやつて貰いたいとい

うことは、厚生省あたりでもこの運

動をやつしておられる人があつて、是非

五月の初めにやつて貰いたいとい

じ、「どもの幸福をはかる」。

います。五月三日ですと参議院の方
は参つたのであります。十三日は土の

同委員会がありまして、衆議院の方で
は「二二三の日」、

をこの機会が読めるという、ここに一つの考え方を織込んで行きたい。そ

今までのいわゆる端午の節句という意味で、いわゆる尚武の節句という意味

人格を認められるという、新らしい日
ができるものとして賛成をいたしま
す。そういう意味で、この子供の人格
を重んずるという、人格のことが制定
の趣旨において最後まで守られるよう
にお願いいたしたいと考えるのであり
ます。

○委員長(山本勇吉君) それでは次に「秋分の日、九月二十三日、祖先をうやまい、なくなつた人々をしのぶ。」こ

「異議なし」と呼ぶ者あり
されど、これは異議がないと思つまつたが、如何でござりますか。

○鶴岡英(山本勇道著) 太に一文假の
日、十一月三日、自由と平和を愛し、
文化をすすめる。」

○来馬道義「文化の日」という名が出来ますと、私共日本國民といたしましては、歴史及び史料の上に、最も明確

か前掛に残つておる我が國の文化の身
労第一人者といふべき聖徳太子を思
い、この聖徳太子の御命日が、大和の
安吾守の誕生日である名にこゝ

お聞その御近好來の御育はまる鈴口】
りまして明確に分り、その佛像は、何
らの損害を受けずに、そのまま今日ま
で保存されておりますので、二二二條

してあります聖體太子の御命日は、日本における最も正しい、又最も古い年並び二月日であるべきで、四月の十

「お出の日は、なした」というので、

祝祭日問題が起りましてから、終始一貫してそのことを希望していたのであります。いろいろな都合でこれが採

用されず、ここに十一月三日という日に「文化の日」が制定されることは、私共、少くとも私に取りましては、少

「文化の日」に対するというわけでありまして、勿論これに対して異議はないの
であります。一應我々がどういふふうに考えておいたかということを、この頃から今日まで、この日に雨の降つたことは幾日もないだらうと思ふくらいに、よい時候の日でありますし、このとき、「丁度菊の花も盛りな頃であります。秋の象徴といふべき菊、又一面においては紅葉也非常に美しい時でありますから、この日に「自由と平和を愛し、文化をすすめる」日として、この日を国民の日とすることに賛成をいたしまして、私共が「文化の日」をかねがね主張しておりますことをここに申添えて、この日に賛成をする趣旨を述べます。

○徳川親眞君　只今來馬さんからお話を頃から今まで、この日に雨の降つたことは幾日もないだらうと思ふくらいに、よい時候の日でありますて、このときに、丁度菊の花も盛りな頃であります。秋の象徴と云ふべき菊、又一面においては紅葉也非常に美しい時でありますから、この日に「自由と平和を愛し、文化をすすめる」一日として、この日を國民の日とすることに賛成をいたしまして、私共が「文化の日」をかねがね主張しておりますことをここに述べます。

がありまして、十一月三日を今度「文化の日」にいたすということにつきまして、元来十一月三日は、我々の間に

おきましては、只今もお詫のございま
したように、日本國憲法の發布された
日であるので、その意味において、十
月三日を記念して、と、いふより本質

が、衆議院の方で十一月三日を「文化の日」にして、そちして五月の三日を持

「憲法記念日」にしたいという話もありまして、我々の方としては、十一月三日を「文化の日」ということを衆議院

の意向を尊重しますと、そのことは延
いて、結局ここにもござりますよう
に、憲法の精神たる自由と平和を愛す

ることになる。又それによつて文化を進めることになるから、この際これを「文化の日」にすると、いうわけでありま

して、勿論これに対し異議はないの
であります。が、一應我々がどういうよ
うに考えていたかということを、この

○委員長(山本勇造君) この日が憲法記念日だといふのは、ピンと誰にでも分るのでありますけれども、「文化の日」と言いますと、どういうわけで「文化の日」だからという疑惑があるようであります。併しこの日は、憲法において、如何なる國もまだやつたことのない戦争放棄ということを宣言した重い歴史的な日であります。日本としては、「この日は忘れ難い日なので、是非ともこの日は残したい。そうして戦争放棄をしたということは、全く軍國主義でなくなり、又本当に平和を愛する建前がありますから、あの宣言をしておるのでありますから、この日をそういう意味で「自由と平和を愛し、文化をするめる」。それから、この日を専門的に「文化の日」という「文化の日」ということに我々は決めたわけなのです。併し心持からすると、本当に尚実際憲法記念日に置いて置きたいのですけれども……それでも次に移りまして「勧業労働感謝の日、十一月二十三日」。

デーが大体採用にならないような状
であつたということが一つ、もう二
は、世界のメーデーの歴史はいろいろ
あります、違つもありますが、日
のメーデーは、労働を祝うと同時に
一面階級闘争の一つの表現として行
れておる、その歴史からして、このの
を祝日にするのはどうか、むしろそ
いう歴史を重んずる意味からしても
從来の民間行事としてます／＼盛ん
やつて貰つた方がいいのじやないが
いう意見、それから、併し日本の再
生の基礎は労働と生産にあるのである
から、勤労ということをもつと我々が
重しがねければならない。從来は十一
二十三日を以て主として收穫を祝つ
のであります、それも勿論大事で
あるが、海の生産、山の生産も、もつ
我々は考慮しなければならない。そ
ういう希望も出て来ておつたので、そ
ら一切を含めだ感謝の日を持とうで
ないか、こういう観点から、生産感
謝の日として、各委員会の御賛成を得た
であります、生産という言葉が少
固苦しい、しつくりしないので、そ
が削られて「感謝の日」となつたの
がありますが、ところが衆參両委員会
打合会において、「感謝の日」とだけ
は漠然として分らない、「労働感謝
日」として貰いたいという
労感謝の日」として貰いたいといふ
こういう二つの修正意見が出まして
大多数を以て「労働感謝の日」と定
づつ次の次第であります。

これらの日が定められることに、大体委員会の多数の御意見がなつたわけあります。少數の意見として、私はやはりまだこの法律が制定せられるまでの間に、どうかもう一回、この五月一日を国民の日として考えて頂くことをお願いして置きたいと思うのであります。これは私共の属しております無所属懇談会が、直接に熱心にしております労連大連絡会議、労働組合の方面、全国労働組合連絡協議会の代表者の方々から、その趣旨について強力に申入れがあつたのであります。我々としてはも、この新らしい国民の日が発表せられましたときに、国民がこれを受取る感じとして、全体の感じとして、やはり二つの不満があります。一つは、國民の日が提出されるのでありますから、この日本の國際的行事といふ面、それから労働者階級に対する國会の期待という点、この点を今回各委員の賢明なる御考慮を願つて置きたいと考えるのであります。でこれは、国民の日はすべて國民の全部に關係する日であるという御趣旨もあるわけですが、五月一日は労働者階級の日だけではなくて、労働というものに対し、國民全体の日であるという意味で、國会がそういうふうにこれを取上げて頂くことができると思いますし、それからやはり現在日本が、殊に労働組合が平和革命という点で進んで行きたいというふうに考えておりますし、又労働問題が、國会を通じて解決されるということが、望ましいということは言うまでも

私としてはどうしても賛成ができないことありますので、そういう意味で國会みずからが絶としうことはないと思いますので、もう一回御考慮を願つて置きたいと思うのであります。併しすでに先日來、十分の討議を盡された結果の少數の意見でありますので、もう論議の余地がないということになりますならば、この國民の日は、こういうふうにして発表せられるわけであります。五月一日が労働組合の方面ではメーデーとして祝われ、その他の方面では必ずしも休みでないために、殊に教員組合の場合、教師は教員組合となりメーデーに参加し、子供達がその日にはつつきり自覚することができないというような、いろ／＼な困る問題がありますので、この新らしい國民の日が、法律として出されます時期において、両院の文化委員会なり、文化委員長なり、或いはいずれかの方法を以て、五月一日を政府が政令を以て休日とする、或いは官廳休日とするといつ入れをして頂きました。そういふふうに取扱を受けるので、労働者階級も了解されるのではないかというふうに考えます。

るという点につきましては、これは僅
はお別受けできませんけれども、併し
文化委員会は、大体ここでこういふ
とを考えておるということに、官廳の方
にでも申入れをするという点につい
ては如何なものでございましようか。
〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕
○金子洋文君 それはこの前の打合会においても、大体各委員の御賛成を得
ておりますから、それは羽仁君の御希望は叶えられるのではないかと
思います。

○委員長(山本勇造君) その点について御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長(山本勇造君) これは申入れの程度で、希望を述べることとします
から。これは法文にどうするといふわ
けに行きませんけれども、そういう労
働者階級の方々の御希望のある点は、
それはこの参議院の文化委員会といた
しましては、官廳の方に傳えるというう
ふうに取扱いをいたすようにいたしま
すが、どうかそうちうに御丁承
願います。

○若木勝蔵君 この祝祭日の審議に当
りまして、初めのところにおいては、
相当日本の新憲法に則つて、いわゆる
文化國家或いは又健康にして文化的な
生活を営むというような観点から、こ
の藝術祭であるとか、科学祭或いは体
育祭、そういうふうな一つのお祝い日
を置きたいというふうな、いろいろの
御意見が出たのですから、私もその点に
おいては主張した一人であるのであります。これは全体の行事の祝祭日の配
分というような方面からも、なか／＼
面倒になりまして、「文化の日」という
ような時に、それらを統合して、この日

のうちに行事として行なつたら如何かと、こういうふうなお話を非常に出ておりました。これは季節的に見まして、も、よい季節であるし、藝術にして、科学にしても、体育にしても、非常によい時期であるというので、ここで一つの行事的な意味で、そういうようなものを本いにやつたらいいじゃないかというような意味で、私も了承いたのであります。それでその点を……。

○委員長(山本勇造君) 今の希望としては、実際藝術祭、科学祭、体育祭、その他沢山こういうのがございまして、これは性質が行事に類するものでありますから、この前の、どがの日に、必ずしも文化の日でなくてもよろしいと思います。これによつてその行事が、その祝祭日ににおいて必ずや潤滑にも出て来ると思ひます。これを希望した人々においても、その点で辛抱して貰うというようになつて、行事を取り入れるという点で、場合によつては取つた数は少いが、倍くらの数が取れなものとの同じような結果になると思します。尚この際に申上げて置きたいことは、木を植えるシーズン、或いは体育のシーズン、或いは健康のシーズンとかいうようなことも、これらも國民の日と共に考えられる点であると思いますが、そういうふうな問題は、すべて民間に行事の委員会でも設けて貰うようにいたします。そうしましてその方で細かに考えて貰うというようになつたらよろしいと存じます。鶴川さん何か……。

○鶴川頼典君 私はこの際、我々委員会の中で、この外に譲せられた紀元節の問題について、一言述べさせて頂きたいと思うのであります。これは、こ

の中に紀元節が入れられなかつたといふ点は、誠に遺憾に堪へん次第であります。我々は紀元節といふものが、是非残して頂きたいということを述べたゆえんのものは、紀元節の起原が、いわゆる非科学的であるというような考え方を行われていたのであります。私も行なつてゐました。そこで、今日までその神話といたしましては、どこの國と雖も、その歴史を遡つて行くならば、必ず神話に発生しないところはないと思うのであります。従つて神話を神話としてこれを傳へ、そして神話を新らしく国民に問題が存するのではないかと思ふます。従つて神話を神話としてこれを傳へ、そして神話を新らしく国民にこれを持たせるには、差支えないのじやないかと考えたいのであります。又同時に、神話の中には、その國の國民感情というものが現われておる。従つてその点も考慮して、我々の祖國の始まりを考えるということは、我々國民の非常な欲望であり、又感情であると当然思つたのであります。併しながらその点は種々な事情によりまじめにその方面に寄せられない結果となりましたことは、誠に遺憾に堪へんのであります。この際我々が、如何に紀元節というものを考えていたかということを一言附け加えさせて頂きたいと存じます。

あなたが最後におっしゃいましたメ

面倒になりまして、「文化の日」という

の問題について、一言述べさせて頂き
今も御披瀝がありましたが、紀元節が
いつかにして書きたいと思ひます

化のよきな人なのであって、この種を象徴される聖德太子が、平和文化の日

上に、又とない立派なる人格であるといふようなことを大いに考えて、將來講和の日が決まつて、いわゆる本当の意味における平和を記念するような日が選ばれるようなときは、一つ十分にこの聖體太子のことを考えて頂きたいというようなことを、特にこの際に申述べて置きたいと思ひます。
○委員長(山本勇造君) では大分長くなりますが……。

結論どうしても婦人の日が入れられないならば、これはこれだけが國民の日として決定されるわけじやなし、將來確やすような状況になれば、当然婦人の日は第一位に置かるべきものだといふことを、私は今まで幾度もく申上げたのだし、その内容は申上げませんが、結局私のこれは信念でありまするので、結局この問題は將來に残すといふことを委員会で御了承願いたい、こ

○久松定武君 最後に一つ私に述べさせ
して頂きますが、祝日を決めましたと
きに、國民からいろいろと希望もあ
つたようであります。その中に取入
れられなかつたもので、特に希望の多
かつた中に婦人の日があります。これ
は三月の八日をして奥れ、或いは四月
の八日をして奥れという希望の方があ
りましたが、我々が休日を制定するに
当りましては、國民全體が休みになる
という希望を持つつおりましたので、
○委員長(山本勇造君) とにかく與會論
調査をいたしまして、そうしてさす
ざまな案が出て来ております。又新聞
社なり、或いは我々への投書なり、或
いは又、ここ委員会での御発言等、
或いは陳情、請願等沢山のものがござ
いまして、その中から僅かに九つ取
たのでありますから、さすゞんな人が
御不満があると思いますけれども、併
し又それらの日は民間においておやぢ
となることは、これは幾つもやりこな

特にこの日は取らず、又婦人の中で
も、團体によつて三月八日、四月の十
日という希望もありますので、これは
民間の行事としてお委せするというの
もございましたし、それからもう一つ
大きなのはクリスマスと、八月のお盆
を休日にして與れという希望も、國民
の間には非常に多かつたのであります
が、我々はこれは制定いたしますにつ
きまして、宗教ということは省いて考
えたのであります。この点いろいろ
問題もありますけれども、宗教といふ
ことを抜きにして、外の休日を取りた
いというところから、國民の声もあり
ましたが……これだけは一つお含みを
願いたいと思ひます。

○複説録一書 私は最初かけ婦人の日
を置くことを頑張つて來たのです。実

にかかるところ、これも幾つかあるじ
つても構わないのですから、今
のところは民間でおやりを願う、そろ
してここに取りました数が九日にしか
過ぎませんけれども、これは明治六年
のとき、太政官で初めて祝祭日を定
めましたのがやはり八日、後に段々に
増えております。それと同じように、
後來要望が強いといふと、段々また積
える日もできましょ、殊に平和の日
は大体それを予定されておるようなわけ
でありますから、尙又、民間の輿論
のあれをも考えまして、又後々にそろ
いうのは、これは考慮するといふこと
にいたしまして、とにかく第二條で九
日の日を選んだのは、皆さんの御努力
でございまして、非常に有難く思ひます
と共に、これは幸いにして合同打合

会におきまして、衆議院もこれは賛成いたしております。第三條は「國民の日は、休日とする。」というのは、これは皆さうに御異議ないと存じます。それから附則の方の「この法律は、公布の日から施行する。」、「昭和二年勅令第二十五号(休日ニ関スル件)を廢止する。」、大変簡単な案であります。條文は簡單でありますても、これの及ぼすところの影響というものは非常に深いものであります。併しそういふ案を、とにかく半年以上に亘つてやつたということは、如何に我々が、たつた九日を選んだのに、國の初めの日は別といたしまして、沢山の問題を非常に慎重に研究調査したかということは、後々にも、この点はぱつきり残して置きたいと存ります。

尚お詰りしたい問題がありますが、大分時間が遅くなつておりますから、速記をここで止めまして、そうして審議の形式に移つて御相談申上げたいと存じます。委員会はこれで散会いたします。

出席者は左の通り。

委員長 理事 山本 勇造君

梅津 錦一君
三木 治明君
若木 勝蔵君
久松 定武君
伊能君
徳川 賴貞君
岩本 月洲君

政府委員	來馬 琢道君
說明員	三島 通陽君
賞勵局事務官	三好 始君
賞勵局事務課長	羽仁 五郎君
村田八千穂君	

昭和二十三年八月二十四日印刷

昭和二十三年八月二十五日発行

參議院事務局

印刷者 印刷局